

住生活の視点から考えた ”暮らしやすさ”と”幸せ”とは

この資料は、総合計画の将来像として掲げられている「暮らしやすさと幸せ」を、住生活の立場で考えた際に、春日井市としてどのような状態を目指すべきかを議論するための資料です。社会経済状況や本市の状況を踏まえ、4つの視点から“目指す状態”を議論し、方向性の共通認識を持つことがこの資料の目標となります。

住生活で大事にしたいキーワード

住まい方・暮らし方・働き方 普段の暮らし 地域(徒歩圏)
愛着 人と人のつながり 地域活動・自己実現 いきがい
自分らしく 健幸 安全・安心 快適 子ども

① 住人の目線から考える

④ 単身

若年 ① 自分らしいライフスタイルを実現できる
 ② 働き方に応じた住まいを選べる
 ③ 住み慣れた地域で安心して孤立せず自立した生活が続けられる
 ↓
 ④ 高齢になっても希望する場所で、自分らしく住み続けられる
 高齢

⑤ 夫婦

若年 ① 働きながら生活しやすいとともに、地域と関わりながら暮らせる
 ↓
 ② 住み慣れた地域で安心して孤立せず自立した生活が続けられる
 高齢

⑥ 子育て

① 安心して子どもを産み育てられる
 ② 普段の暮らしの中で、子どもが自ら健やかに育つ環境があり、子どもの成長を感じられる
 ③ 子育てしながらでも、自分らしくやりたいことができる

暮らしやすさと幸せ」を感じる

① 住人の目線から考える

① ② ③
共通

住まいの
確保困難

住まいの確保が困難な人とは
低額所得者、被災者、高齢者、障がい者、
子どもを養育している者、外国人、
DV被害者 等



- ① 安定して居住できる住まいが確保されている（※1）
- ② 安定した雇用がある
- ③ **地域活動**等の交流に加われる
- ④ **普段の暮らし**の中でバリア（ハード及びソフト）
を感じにくい
- ⑤ **地域**の中で孤立せずに暮らせる

（※1）入居中のトラブルリスクや、孤独死等の死亡時のリスクから、賃貸住宅を借りることが難しい者に対し、福祉との連携による見守り支援等を行う事で、住宅を確保できその後も継続して住むことができている状態

暮らしやすさと幸せ」を感じる

視点

② 住宅ストック
から考える

良質
な住宅

住宅を
選べる

③ 身近な住宅環境
から考える

ハード
ソフト

目指す状態

- ① **健幸**で快適に暮らせる住宅
- ② 環境に配慮している住宅
- ③ 災害時にも安全性が高い住宅
- ④ 新技術を活用し利便性が高い住宅
- ⑤ マンションや空き家等が適正に管理されている

- ① 手ごろな価格で手に入る
- ② 中古を含めた住宅のバリエーションがある
- ③ DIYやリフォームのニーズに対応した住宅がある

- ① 安全で安心できる（危険性が排除されている）
（マンションや空き家が適正に管理されている、
災害に対して危険な地域でない）
- ② 普段の生活が便利（生活利便施設充実、交通の
便が良いなど）
- ③ 快適な場が身近にある（公園、体を動かせる
場所など）
- ④ 身近にちょっとした困りごとを相談できる人
がいる

暮らしやすさと幸せ」を感じる

④地域（まち）から考える

ソフト

- ① 人と人のつながりを感じられる
（地域活動などを通じ、いきがいを感じている、自己実現が図られている）
- ② 楽しみながら暮らせる
（日常的に文化や芸術に触れられる、スポーツを楽しむ、同じ趣味を持つ人と交流するなど）

ハード
ソフト

- ① 地域活動の場がある
※地域活動（コミュニティ活動）とは、地域の課題解決や住みよい地域環境の創造につながる活動
- ② 自らが暮らす地域に将来の希望と愛着を持てる
（地域に自慢したいお店や活動がある、地域に応援したい活動や人が住んでいる）
- ③ 歩いて楽しいまち、歩きたくなるまち

暮らしやすさと幸せ」を感じる